

景況実感調査(2020年1月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 稼働日 19日と、前月とほぼ同じとなるが、売上、数量ともに微減となった。報道にもある通り、安値の外材の入荷増と重なり、価格は下押し圧力が強まっている。メーカーのロールアップも早く、流通在庫は減っていない。加えて、中国発の新型コロナウイルス感染の影響も日を追って大きくなり、スクラップ安等々ネガティブな要素ばかりだ。トヨタの紐付き材に対しても、日鉄との交渉はチキンレース化している模様で、注目している。すべてのフェーズが大きく変化する年となりそうだ。
- ② 12月末の薄板三品在庫は若干減った(前月末比)とはいえ、まだ431万4千t。かなり多い。輸入材(熱延・冷延広幅帯鋼、表面処理鋼板)の12月入荷も31万t超え。市況もジリジリ下げ止まらない。
- ③ 1月は前月比横這いと、依然として需要の盛り上がり欠ける。新型コロナウイルスの拡大などの懸念材料もあり、一時底を打った海外市況も再び軟化の恐れもあり、注視している。
- ④ 大手建機メーカーが再び調整になった。ますます需要の回復の見通しが悪くなった。仕入れの調整を進めている。

中板

- ① ほぼ3年近くに及ぶ薄板三品の400万トン超えの常態化や、紐付きと店売り価格の格差に解消は見込まれず、二次三次流通として自助努力にも限界があり、手詰まり状態は更に深刻化している印象である。折しも、日本製鉄の大規模な生産設備合理化策もあり、歴史的に続いてきた国内高炉主導の鉄鋼流通にも変化が求められるであろう。こうした大きな時代変化の中で、先ずは日々の取引業務を地道に丁寧にこなし、次代に生き残る方策を練ることではないかと考える。

厚板

- ① 切板、母材共に引き続き需要は弱い。販売数量は前月比にて10%超減少した。前年同月比では3割近い減少で、不況そのものの様相である。建設機械は台風19号によるサプライヤー被災の影響からは脱しつつあるが、当社宛の発注回復には未だ至っていない。今後は新型肺炎によるサプライチェーンへの影響の有無を見極める必要がある。産業機械は海外需要が引き続き弱いことから、下期中に在庫調整が終了せず、来上期も下期比減産が見込まれている。素材販売は物件対応の引合いがあり、前月比では増加したものの、前年同月比では3割減少した。土木案件は横這いにて推移している。

— 舟安开多金岡

- ① 12月から売上は下降し始め、1月は11月までの売上水準の25%減となる。世界的な事象の錯綜、混乱化にあって、これ以上売上が落ちないことを祈るばかり。

H形鋼

- ① 1月の倉出しは減少。前年同月比もマイナス。土木向けの需要はあるが、建築と店売りは減少。今月も厳しい状況だが、現状市況の維持に努める。
- ② 一般形鋼はやや減少も、H形鋼の荷動きが芳しくない。不需要期に加え、オリンピックで流通が止まることも予想され、明るさが見えない状況。

異形棒鋼

- ① 店売り販価は横這い。動きも小口当用買い。12月の動きは悪かったが、1月は通常に戻った。2月もだいたい同じと思う。先行きは不透明。メーカーが強く、動きが鈍い中横這い。
- ② 1月度は12月より更に荷動きが悪化。厳しい年のスタートとなった。市況は徐々に軟化しつつあり、新規物件の見積り件数も少ない。

平鋼

- ① 荷動きは年明け直後、動きが鈍かったが、前年度よりは低いものの多少なりとも回復した。12月が底だったのか、一時的なものなのか注視していきたい。
- ② 建築物件は少ないが、土木物件は増えてきた。しかし、良い状況とは言えない。収益も回復しないので、価格維持に努めたい。

軽量形鋼

- ① 店売りは低調。物件も少なく、先行き不透明な状況だ。
- ② 受注が落ち込んできた。来期の予想も悪く、期待できない状況。

鋼管

- ① 前月同様、低調横這い。足下の市況も軟化傾向にあり、状況はよろしくない。
- ② 年明け、更に日割り出荷は落ち込んでおり、好調な分野は皆無の状況となっている。
- ③ 仕事は入る割に売上は増えない。稼働率は下がらないのに売上数量は下がりっ放し。ユーザー、物件側の納期延期、進捗遅延のため。新型の不況である。

構造用鋼

- ① 需要環境は前月と変わらず弱含み横這いの状況。自動車関連、建設機械、工作機械と総じて製造業向け出荷が低調。市中在庫は出荷量の減少で、在庫率を見るとやや多めの感がある。価格は安値が散見されるが、全体では価格維持で様子見状態。
- ② 去年の後半よりマイナス傾向にあった状況が年明けから続いている。一部半導体関連で動きがあるが、全体的に良くない。

磨棒鋼

- ① 昨年末ごろより更にもう一段階の落ち込みとなっている。特に自動車、建機向けは調整局面が今後も長期化する模様。店売りは紐付きほどの落ち込みは少ないものの、細かい上に短納期の要求が多く、配送コストばかり掛かってしまっている。このような市況でも販売価格は何とか維持できているのは救いといえる。

その他

<鉄スクラップ>

- ① スクラップ相場は下落している。国内の高炉、電炉メーカーは景気の減退により、減産傾向にあり、原料となるスクラップを積極的に購入しない。また、日本のスクラップ相場を牽引する海外マーケットも弱い。2月にかけても続落しそうだ。

<金属表面処理加工>

- ① 1月は当初より高操業の予定で、計画通り。大口物件が継続していたことと、高付加価値案件が工程通りに動き、高操業で推移した。スポットは中旬以降、引合いが低調。年度末向け駆け込み需要に期待する。